

“生きて 眺めて 育てて

専用キットで 花の癒やし “

中国新聞（広島市に本社を置き中国5県に約64万部を発行）11月7日（金曜日）の朝刊(21)暮らし面のおよそ半分を占める下記のような「花活」の記事が掲載されました。

11月7日（金曜日） 中国新聞 暮らし

高齢者施設などで気軽にフラワーアレンジメント

広島の花弁業者 普及に力

生きて 眺めて 育てて
専用キットで 花の癒やし



完成した作品を見せ合い、笑みがこぼれるお年寄り
（広島市佐伯区のグランホームあさひ）

「イレカエール」にポットを入れて出来上がり

① マークの入った吸水スポンジ
② 備え付けのストローの長さに合わせて花や葉をカットする
③ マークに合わせて花や葉を挿す

高年齢者施設などで気軽にフラワーアレンジメントが楽しめる。広島県内の花弁業者たちが専用キットを開発している。生きて、眺めて、育てる喜びが味わえるという。園芸福祉士と連携し、さまざまな生活の質の向上と消費アップの両方の願いをキットに込めている。

キットのベースになっているのは、広島県世羅町の花の生産者、西森勝さん（69）が考案した「イレカエール」。花やグリーンのみをポットが四つ入り、自在に入れ替えて楽しむ花器だ。これに注目したのは、花弁業者でつくる広島花きイノベーション事業推進協議会。四つのうち一つのポットで簡易フラワーアレンジメントが体験できるよう、次のような手法を取り入れた。

吸水スポンジに「O」のマークが記され、口に大きな葉、○にメーンの花、△にサブの花の順で挿していく。空いた隙間を小さな緑の葉で埋めたら完成だ。この手法は農業・食品産業技術総合研究機構・花き研究所（茨城県つくば市）などが開発した園芸療法プログラム。

高齢者の脳トレにも期待

ラム。脳トレに有効と云われる。この新しい。来生所の高齢者。どで実際に。キット500円からの講習料。助事業で。本園芸福祉士。この日は。お年寄りが。に花を挿し。から完成。者は「あ。華ねえ。切に育て。ち痛つて。た同級生。緑の風景。は「一言。理やかで。知らない」。広島花。事業推進。会長は。力を。多くの人。たい。わせば事。0922

この記事の全文は <http://viewer.chugoku-np.co.jp/books/viewer/app/P000001044/2014/11/07/1> をクリックしていただいて「今日の紙面」下蘭の“次へ”をクリックしていくと(21)ページが出てきます。

記事では、「広島の花弁業者がイレカエールという専用キットの普及に力を入れていて、園芸福祉士と連携して施設での講習が始まり、生活の質の向上と消費アップの両方の願いをキットに込めている」とリードに記されています。本文では、「・・・来年3月までに20カ所の高齢者、障害者施設などで実際に体験してもらう。キットは花代込みで3500円から。ただ、施設での講習は農林水産省の補助事業で、利用者の負担はない。日本園芸福祉普及協会が認定する園芸福祉士が務める。・・・」と記載され、中見出しでは「高齢者の脳トレにも期待」と出ています。

何とも素敵なお年寄りの笑顔が大きく映った写真が、実際に行った講習会の一コマとして掲載されています。その写真の下には“完成した作品を見せ合い、笑みがこぼれるお年寄り（広島市佐伯区のグランホームあさひ）”という説明文が書かれています。イレカエールを使ったフラワーアレンジメントの手順もカラーで分かり易く掲載されています。

この活動では、園芸福祉士の活躍の場が公に認められ、また、その活動の対価も支払われる仕組みを構築しようと全国で初めて試みられています。

これまで4か所の施設で講習会を開催しましたが、利用者さん約100名、職員さん25名、そして園芸福祉士も延べ21名、総計およそ150名の方がイレカエールを介して一緒になって楽しいひと時を持つことができました。これからも多くの方々とお会いできるのを楽しみしています。



利用者さんの居室に置かれているイレカエール



イレカエールと一緒にお日様を浴びています

第1回目の講習会は9月25日に開催されましたが、その後も利用者さんの中にはベッドのそばに置いて大切に可愛がってくださる方もいます。また、天気の良い時にはイレカエールと一緒に屋外に出てお陽さまの日差しを浴びて元気をもらっているようです。利用者さんたちは、**生きている植物や花が傍にある生活**の楽しさや気持ちよさを楽しんでおられようです。

(ひろしまね園芸福祉協会 事務局兼花活事務局 進藤記)